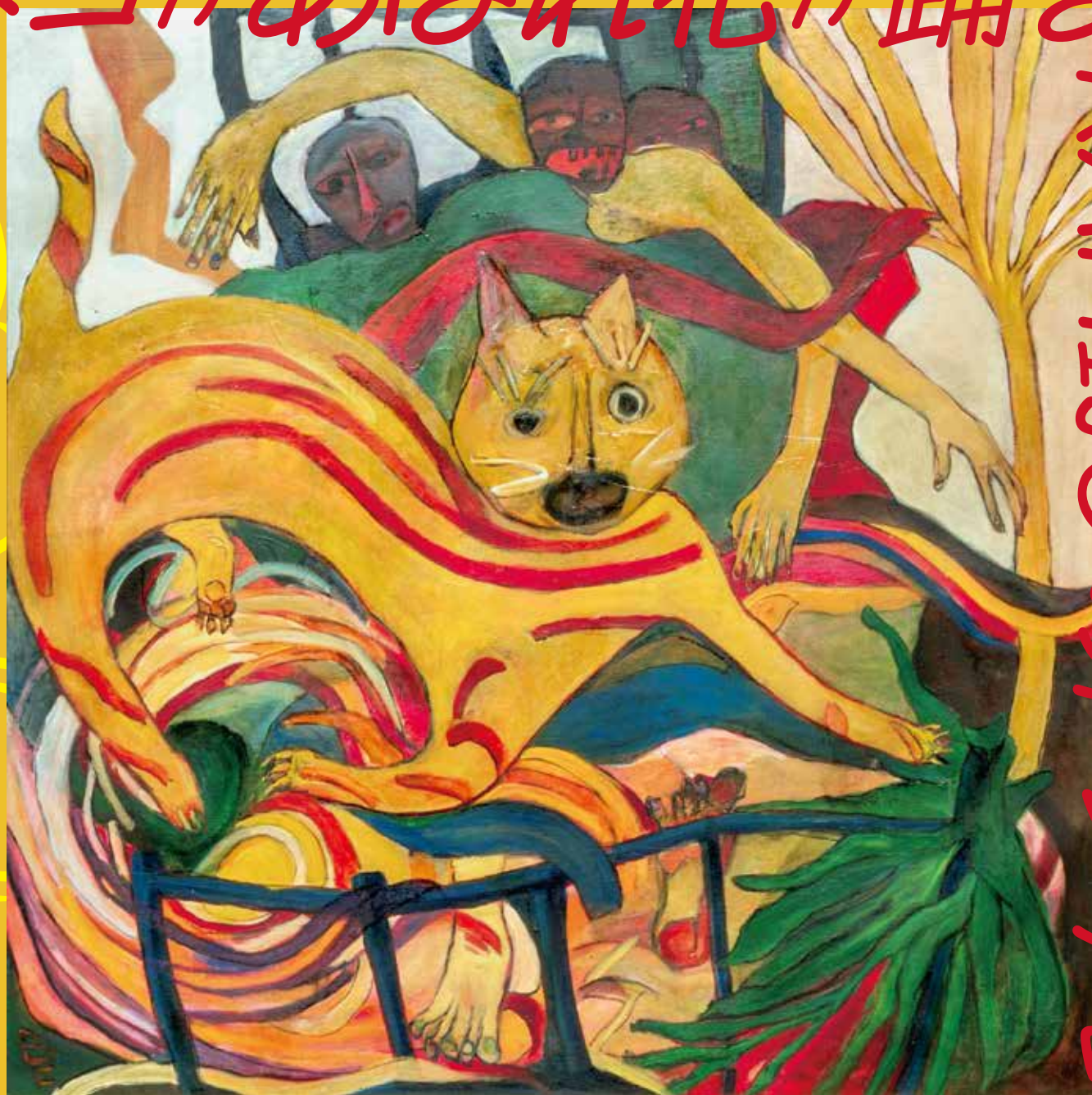


ネコがあばれ花が踊る!



《黄金猫》1987年

令和8年度相模原市民ギャラリー自主企画展

上條 YOKO 陽子 KAMIJO

1960-2000 原点回帰・苦悩と喜び

2026 8.1(土)》8.23(日)

10:00-18:00 (入場は17:45まで) 水曜日休館

主催/相模原市 観覧料/無料

会場/相模原市民ギャラリー



相模原市
ホームページ



Facebook
相模原市民ギャラリー

KAMIJOのインテイナー世界



《玄黄》1977 年



《車輪》1988 年



《トラ》1988 年



上條陽子 Yoko KAMIJO

横浜生まれ、相模原在住
安井賞・相模原市民表彰
神奈川文化賞・文化庁長官賞
相模原芸術家協会名誉顧問

生死の間をさまよった上條陽子が見た世界は、トンデモなく奇妙キテレツな世界だった！

無名の新人画家ながらも“画壇の芥川賞”と呼ばれた安井賞を女性で初めて受賞し、美術界に新風を巻き起こした上條陽子。古代中国の『易経』に由来する「天地玄黄」の世界に近代美術の表現主義的な手法を融合し、人間の持つ不安や苦悩などを染み入るように表現して一躍注目的となりました。

その後、大病を患い、夢とも現実ともわからない奇妙で奇天烈な世界をさまよったことから作風は、激変。過激なまでに誇張された形態の人体や謎の動物などが、刺激的な黄色を背景に躍動する作品群を生み出します。さらにその形態は、より抽象化し、バラバラに解体され、それらを紙の断片にして貼り合わせて再生する半立体作品に移行。この“ペーパーワーク”の技法により、世界各国を駆け巡り、特にパレスチナの難民キャンプで美術活動が続けたことから、今や“パレスチナ支援の美術家”として広く知られるようになっていきます。

本展では、画家として活動し始めた1960年代からその作品の激変により誰もが驚いた1980年代、さらにユーモラスな半立体作品からパレスチナ支援に目覚める2000年頃までの上條陽子の刺激的な制作活動を、一連の作品を通じて紹介します。



《手術》1987 年



《飲みましょう》1993 年

関連イベント

★作家によるギャラリートーク

上條陽子氏が作品や画業について語ります。

【日時】8月9日（日）14：00～15：30

【会場】市民ギャラリー会議室

【対象】どなたでも。先着 40 名

★担当スタッフによる作品ガイド

展覧会の担当者が作品説明を行います。

【日時】8月2日（日）・16日（日）・23日（日）

いずれも 14：00～（30 分～45 分程度）

【対象】どなたでも。直接、展示室まで。



相模原市民ギャラリー

SAGAMIHARA CITIZEN'S ART GALLERY

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原1-1-3 セレオ相模原4F
TEL: 042-776-1262 / FAX: 042-776-1895
E-mail: gallery@city.sagamihara.kanagawa.jp